

WinActor製品紹介資料

DXの第一歩をはじめませんか？

WinActor[®]が、
仕事を変える。
あなたを変える。
組織を変える。

1.WinActorコンセプト

2.現場フレンドリーなRPA WinActor

3.WinActor が現場フレンドリーな3つの理由

4.WinActor 導入事例

5.ライセンスのご紹介

6.製品ラインナップ

WinActor コンセプト

WinActorとは

WinActorは、パソコン上で人が行うさまざまな作業を自動化できるRPAツールです。業種を問わず多様な業務を効率化することができ、2014年の発売以来、8,000社以上の企業に導入いただいています。

あらゆる現場での業務変革を継続的に支援し、
働く人の充実感向上とさまざまな企業の成長に貢献



品質・生産性向上、人手不足解消
コスト削減から、経営改善へ

目の前の課題解決の積み重ねを
業務変革と経営改善につなげる



定型業務を削減し
創造的な仕事へ集中できる

人間が本来やるべき仕事、創造的な仕事
価値のある仕事に集中するための支援



課題解決力を磨き、属人化した
ノウハウを組織で共有して、組織の成長へ

さまざま経営課題の達成を直接/間接に支援することで
企業・組織の成長に貢献する



現場の作業軽減、ライフワークバランスの構築、
ヒューマンエラー軽減で心理的安全を醸成

働く人の充実感・達成感・モチベーション向上
職場の雰囲気改善、組織文化の変革など、心理的な成長を育成

現場フレンドリーなRPA WinActor

RPAとは

RPA

(ロボティック・プロセス・オートメーション / Robotic Process Automation)

RPAは、これまでの人間のみが対応可能と想定されていた作業、もしくはより高度な作業を人間に代わって実施できるルールエンジンやAI、機械学習等を含む認知技術を活用した新しい労働力を創出する仕組み(Digital Labor)となります。

日本RPA協会「日本RPA協会設立」より <https://rpa-japan.com/news/33>

RPAとは

人が手作業



- ✓ ミスする
- ✓ 疲れる
- ✓ 属人化しやすい



RPAが代行・代替

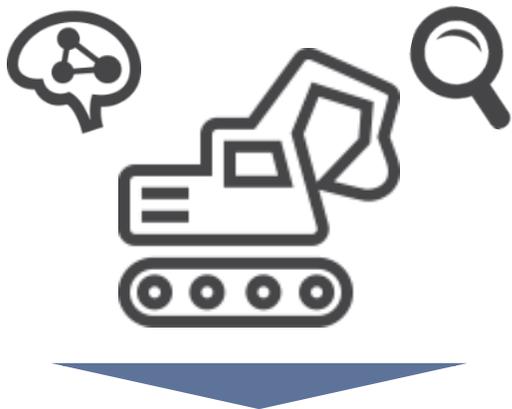


- ✓ ミスしない
- ✓ 疲れない
- ✓ 標準化する

RPAとは

RPAによる代行・代替(自動化)と業務の特徴から得られるメリットは以下のようなものです。

RPAが代行・代替



空いた時間を
人にしかできない業務に
シフトできる

✓ ミスしない

- ・ミスによる手戻りが起きない
- ・ミスのプレッシャーから解放される

✓ 疲れない

- ・24時間はたらくことができる
- ・自動化で人の長時間労働を減らせる

✓ 標準化する

- ・アナログな業務をデジタル化し可視化できる
- ・RPAを実行するだけで誰でも業務ができる

RPA導入が進む背景

RPA導入が進む背景

政治・働き方改革

経済&技術・DXの気運

業務効率化のニーズ

労働力不足



RPA導入が寄与すること

自動化による業務効率化

アナログ業務のデジタル化

コスト削減や生産性向上

人手不足の解消

WinActor の誕生ストーリー



現場のために研究開発

業務への新システム導入が進み、

- ・新旧システムのギャップが生じる
- ・新旧システム間連携はオペレータが実施
- ・冗長かつ単調な作業で現場の負荷が大きい

課題をよく知っているのは現場だが、
当時のツールではプログラミングスキルが必須

現場でも使える操作性で、
低コスト・短期間で開発可能なUMS*を開発

現場での活用と改善

NTT事業会社の

- ・ NTT回線のサービスオーダー受付
- ・ NTT回線の名義変更

などの業務にUMSを導入

530分/100件の業務を
40分/100件に短縮するなど
大きな効果が出始める

より使いやすくするため
NTT事業会社からフィードバックを
得て機能改善

市場の現場に向け製品化

開発したUMSが社会的に需要があると議論され製品化



Ver.7はユーザーインターフェースを刷新
視認性と操作性重視によりユーザーエクスペリエンスを向上

*UMS: Unified Management Support System(統合管理支援システム)

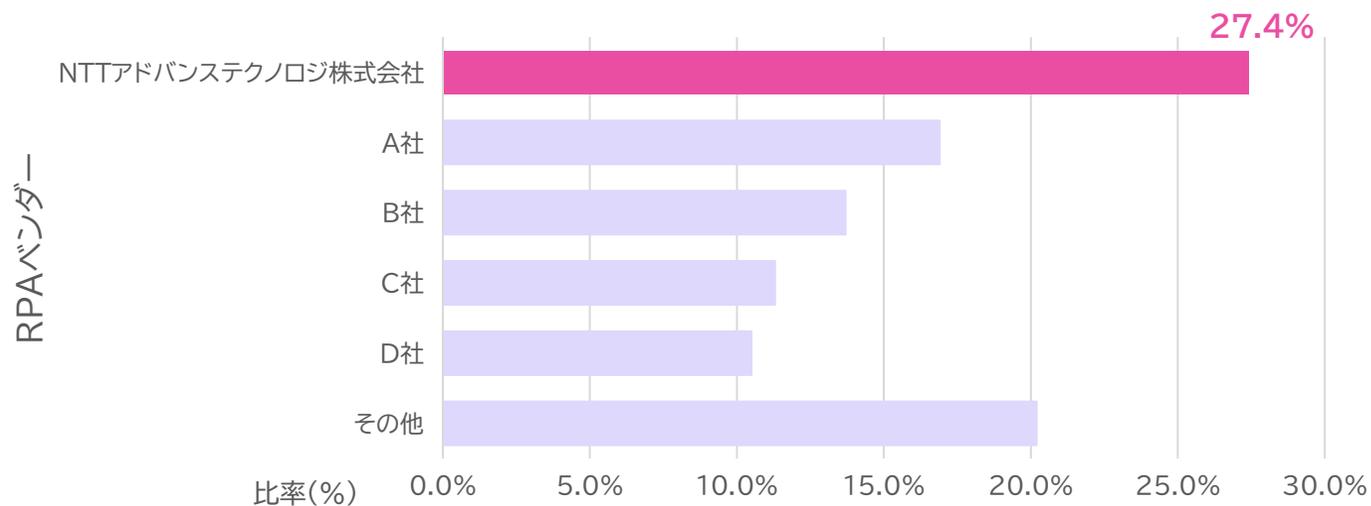
選ばれるWinActor

導入率
No.1

導入企業数 8,000社突破

2023年11月現在

導入社数比率



引用:株式会社富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場2024年版」P255 RPA 2023年度 市場占有率推移<パッケージ>(数量)
※2023年度ベンダーシェア

WinActor が 現場フレンドリーな3つの理由

WinActorは現場にとって ——



使いやすい



作りやすい



安心サポート

だから「現場フレンドリー」

使いやすいから「現場フレンドリー」



✓ 探さずに自動化実行

頻繁に使うシナリオは、トップ画面に表示されているので、すぐに実行できます

✓ 見やすいシナリオエディタ

作成中のシナリオが大きく表示され、動作の名称や作業の順序、分岐などフローチャート全体が分かりやすく表示されます

✓ 直感的なドラッグ&ドロップ操作

ノーコードで部品の順序を指定し、設定を調整するだけでシナリオを作成できます

✓ オンラインアップデート

更新があった場合に手動で更新するか、自動で更新するかを設定できます

✓ WinActor管理 ※管理ツール

ライセンス、シナリオ、ファイル、スケジュール、タスク、イベント管理など使用方法にあわせて設定できます

※管理ツール → [WinActor Manager on Cloud](#)などの管理ツール

作りやすいから「現場フレンドリー」

✓ 生成AIと連携

生成AIとの連携により、簡単にシナリオのひな型を作成できます

✓ 自動記録

いつもの作業をWinActorに記録させるだけで基本的なシナリオが完成されます

✓ シナリオ作成ガイド

初めての方でも、ガイドに従って設定を進めるだけで迷わずにシナリオ作成ができます

✓ チュートリアルでシナリオ作成を習得

シナリオ作成の手順を解説し、実際の動作を確認することで、シナリオ作成の習得ができます



安心サポートが「現場フレンドリー」

✓ 完全日本語対応

RPAツール画面、マニュアル、サポートなどすべて日本語対応しています

✓ 探しやすい充実したFAQ

導入社数の多さと販売代理店のネットワークを生かし、日々FAQを充実させています

✓ ユーザーをつまづかせないサポートツール

シナリオ作成チュートリアルや、検索できるWebマニュアルなどサポートツールが充実



✓ 販売代理店の手厚いサポート

お客様のお悩みに応じて全国900の販売代理店が直接サポートします

WinActor 導入事例

WinActor 管理製品の導入により全社展開を実現

【株式会社 ノーリツ 様】



導入企業プロフィール

業種 : 製造
従業員数: 約2200名
導入期間: 3か月
導入体制: 4名

現状と課題

- ① 内部統制
- ② 実行予定の重複
- ③ IT部門の管理負荷

WinActor 導入の効果

年間 **約833日分**の稼働削減により時間外労働を大幅削減
WMCにより **80本以上**のシナリオを効率的に運用

- WinActor 導入の取り組み -

WMC によるシナリオスケジュール実行

エラー時のシナリオ自動リトライ

管理製品による実行履歴管理

フルリモートでの WinActor 実行体制を実現

WMC※ により必要な情報が集約され
内部統制の要件を満たせました。
無しでは考えられないほど活用しています。

企画管理本部 IT推進部 橋本秀昭様



導入企業担当者の声

※WMC: WinActor Manager on Cloud(クラウド型WinActor管理サービス)
複数のWinActorをクラウド上で集中管理するためのサービスです

常駐先業務環境の変更なしで効率化に成功

【アデコ株式会社様】

Adecco

導入企業プロフィール

業種：サービス
従業員数：約3000名
導入期間：3年
導入体制：4名

現状と課題

- ① 採用難による稼働不足
- ② 常駐先業務環境の変更に制限
- ③ 専任のメンテナンス要員確保が難しい

WinActor 導入の効果

常駐先の環境変更なし で業務効率化
常駐先社内でも注目 されるほどの成果

- WinActor の選定理由 -

- 自動化による業務効率化
- クライアント型で運用可能
- 現場でメンテナンスできる操作性

常駐先業務特有の課題解決にマッチ

業務環境の変更が不要かつ
現場でメンテナンスができるWinActorは、
常駐業務での利用に向いています。

アウトソーシング&ソリューション事業本部
シニアスーパーバイザー 武井 崇様



導入企業担当者の声

WinActorの全社展開に成功

【株式会社ニチレイロジグループ本社様】



導入企業プロフィール

業種 : 物流
従業員数 : 約5000名
導入期間 : 3か月
導入体制 : 5名

現状と課題

- ① ブラックボックス化により展開困難
- ② 「自動化」へのマイナスイメージ
- ③ 自社のリソース不足

WinActor 導入の効果

12社94事業所 **100名** のシナリオ構築人材
1年で **100本** のシナリオ稼働
10,000時間 の年間業務時間削減

- WinActor 導入・展開の取り組み -

- ・ 社内WA活用事例動画を作成しメリットを普及
- ・ 50回の業革セミナー開催(のべ700名以上参加)
- ・ 女性限定WinActor 開発合宿(40名参加)
- ・ 各事業所の担当者が孤立しない環境作り

▶ 「当たり前だった業務」を変えていくマインドが浸透

- ・ ナレッジの蓄積
- ・ 管理ツールやガイドラインの構築
- ・ 教育担当者の育成
- ・ 全国各地への出張対応

▶ WinActor 展開推進体制の構築に成功

業務を「いい方向に変えよう」とするマインド
が生まれ、事業所のコミュニケーション活性化
にもつながっています。

業務改革推進部 部長代理 勝亦充様



導入企業担当者の声

AI-OCRを組み合わせたWinActor導入に成功

【日本紙パルプ商事株式会社様・株式会社JP情報センター様】



導入企業プロフィール

業種 : 流通・小売
従業員数 : 約4000名
導入期間 : 3か月
導入体制 : 5名

現状と課題

- ① 業務の属人化
- ② 月末の業務集中とミスの発生
- ③ AI-OCRの限界
- ④ 人的リソースの制約

WinActor 導入の効果

AI-OCRと組み合わせた業務改善に成功

16業務・平均60% の業務時間削減

- WinActor 導入の取り組み -

*標準化プロセスはイメージです



標準化した業務を23ステップに区分し

4ステップにWinActorを適用

(AI-OCR導入後も)データの入出力や書類作成に手作業が残り「もっと効率化できるのでは」というもどかしさもありました。

広報室 室長 藤嶋章人様

*AI-OCR: AI技術を採用したOCR(光学文字認識機能)



導入企業担当者の声

代理店サポートを活用し内製化に成功

【株式会社クレディセゾン様】



導入企業プロフィール

業種：金融
従業員数：約3200名
導入期間：6か月
導入体制：非公開

現状と課題

- ① 増え続けるカード処理業務
- ② 難しい3つの課題の同時解決

WinActor 導入の効果

約650,000件 の月間作業を自動化

15,000時間 の月間工数削減

240本以上 のシナリオ作成

- WinActor 導入の取り組み -

販売代理店が運用ノウハウを提供

自社リソースで運用できると確信

現場の声を聞き、自社リソースでシナリオを作成

業務のキャパシティが拡大
社員からの評価で活用拡大

目の前でシナリオを作成してもらい
「自社リソースで運用していける」という
確信を得られた。

業務推進部 RPA推進室 ご担当者様



導入企業担当者の声

シナリオ内製と運用で業務を効率化

【株式会社西原衛生工業所様】

株式会社西原衛生工業所

導入企業プロフィール

業種：建設
従業員数：約635名
導入期間：2年
導入体制：非公開

現状と課題

- ①システム改修のたびにRPAベンダーに依頼するため、稼働と改修費用がかかる
- ②多岐にわたる事務作業量が増加
- ③建設業の2024年問題

WinActor 導入の効果

**他社RPA からWinActorに乗り換え 保守費用節減、
残業時間削減**
4つの業務自動化により **年間180時間削減**
施工管理体制の管理業務を自動化 **年間300時間削減**

- WinActor 選定理由 -

- ・ シナリオを自分たちで内製できる
- ・ 販売店の手厚いサポート
- ・ 基幹システムとの互換性が良い
- ・ 保守費用節減、残業時間削減

専任のIT技術者がいないため、自分たちでシナリオ作成、修正ができることを重視しました。さらに販売店の手厚いサポートが決め手となりました。

首都圏本店 業務部 統轄グループ
小耐潤礎様



導入企業担当者の声

将来的には各支店にRPAを導入する全国展開が目標

詳しい事例は[こちら](https://winactor.biz/case/)

<https://winactor.biz/case/>

ライセンスのご紹介

ライセンス種類とライセンス種別

ライセンス種類

ノードロックライセンス(NL)

1ライセンスで1端末でご利用可能
※同じ端末を複数人で使用も可能



フローティングライセンス(FL)

購入したライセンス数の範囲内でご利用可能
※端末(場所)を問わずご利用可能



ライセンス種別

フル機能版



シナリオの作成・編集

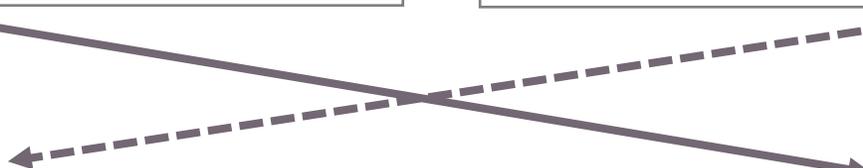


実行

実行版



実行のみ



ライセンス種類: ノードロックライセンスとフローティングライセンス

ノードロック ライセンス

- 特定の端末のみ WinActorが利用可能
- 1ライセンスで1インストールが可能
- ライセンス管理は各端末上で実施
- インストール端末数分のライセンスが必要

(例)NL2ライセンスを導入中の場合

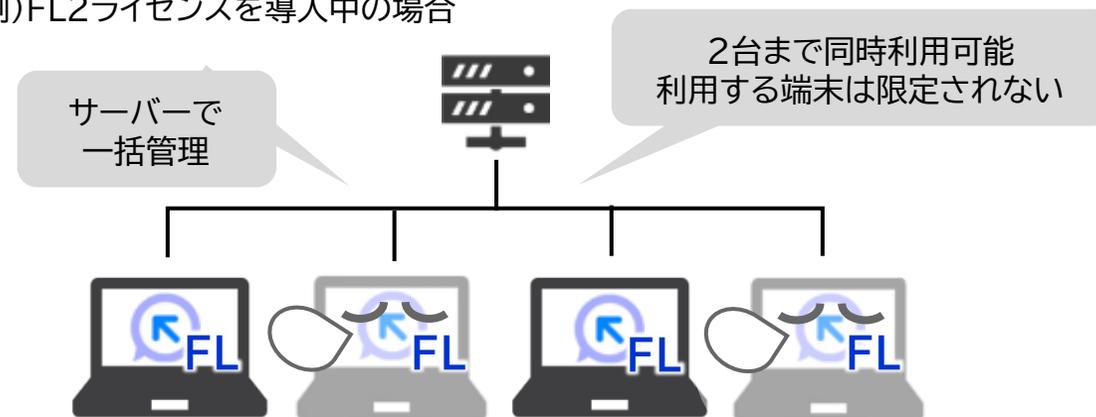


➤ 1台から手軽に導入可能

フローティング ライセンス

- ライセンス管理サーバー上でライセンスを一括管理
ライセンス管理製品 (FLA・WMC・WDなど) が必須
- 購入したライセンス数の範囲内で、端末を限定せず WinActorが利用可能※
- 同時利用する端末数分のライセンスが必要

(例)FL2ライセンスを導入中の場合



※利用予定の全ての端末にWinActor(FL版)のインストールが必要

➤ 複数の端末でライセンスの有効活用が可能

ライセンス種別:フル機能版・実行版

フル機能版

- シナリオの開発、編集、実行が可能

(例)部署ごとのシナリオ開発・実行

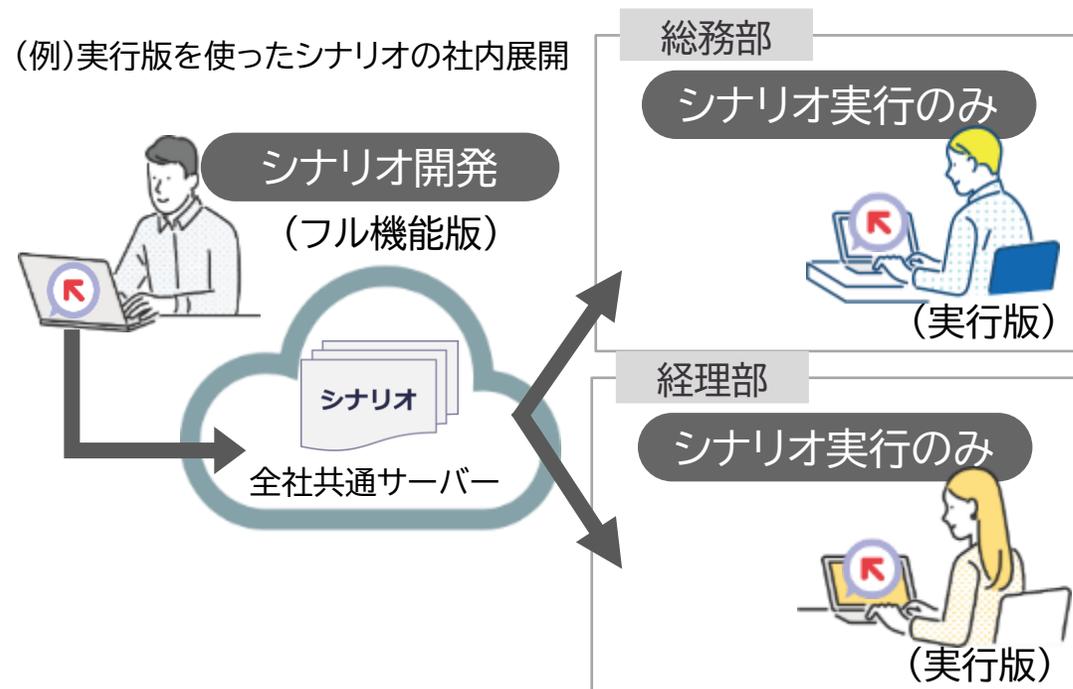


➤ 各部署でシナリオ開発・実行

実行版

- シナリオ実行のみの安価なライセンス
- 利用者によるシナリオ作成／編集は不可

(例)実行版を使ったシナリオの社内展開



➤ 各部署に同じシナリオを配布。安価なライセンスで社内展開が可能

ライセンス種別比較

		ライセンス種別	
		フル機能版	実行版
シナリオ開発		○	—
シナリオ編集および保存		○	—
シナリオ読込		○	○
シナリオ実行		○	※1 ○
画面 表示	フローチャート	○	※2 ○
	変数一覧	○	※2 ○
	データ一覧	○	○
	ログ出力操作	○	○

※1:部分実行不可 ※2:閲覧のみ可、変数操作不可

WinActor ご利用体制の例

①現場主導・現場開発型

現場にて導入・開発



小さくはじめて大きく育てる
NLでの導入がおすすめ

②全社推進・現場開発型

全社での研修



現場で開発



現場での開発者を広げるため
FLでの導入がおすすめ

③全社推進・専任開発型

自動化業務のヒアリング



専任者が開発

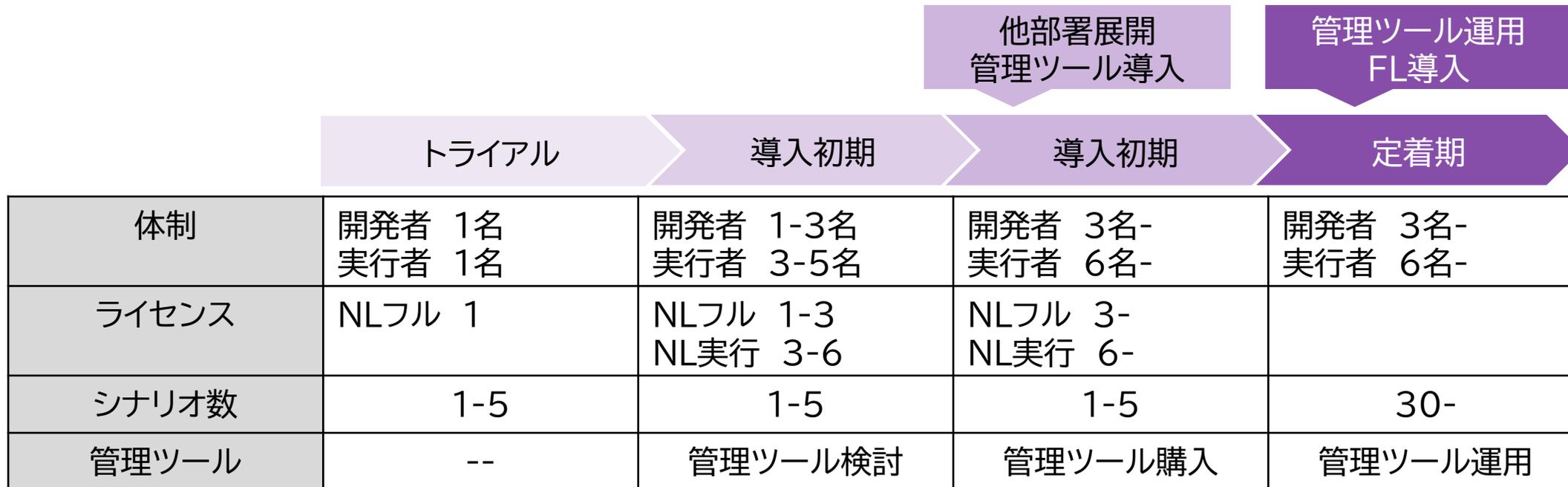


効率的な実行を実現するため
FLでの導入がおすすめ

WinActorご利用体制の例 ①現場主導・現場開発型

現場部門からスモールスタート

例) 支店や部署が個別の業務改善の取り組みの一つとして導入、他部署へ横展開



メリット

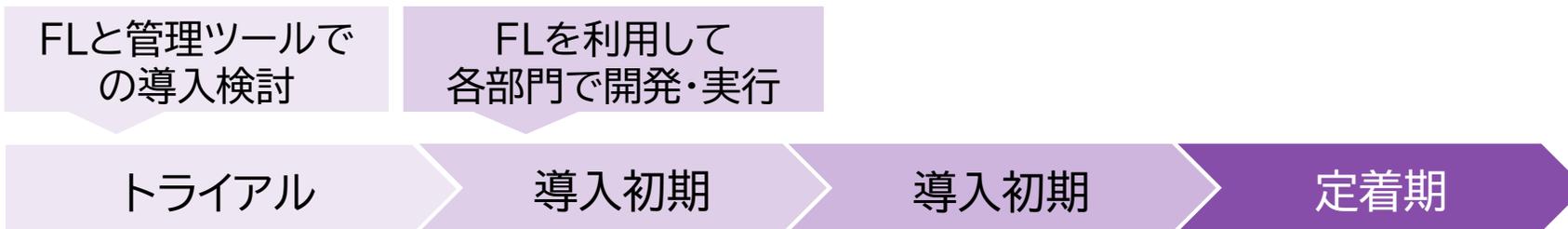
- 現場担当者は業務プロセスに精通しているため、WinActor導入・シナリオ作成をスムーズに進めやすい
- 現場のニーズや多様性を取り入れながら進めやすい

デメリット

- シナリオ作成担当者によってシナリオの品質にばらつきがあり、管理コストが大きくなりやすい
- スキルが属人化しやすい

WinActorご利用体制の例 ② 全社推進・現場開発型

トップダウンによる全社での導入（トライアルや導入初期から複数部署で利用 現場が開発）
 例) 全社の取り組みとして導入。運営組織が各部署への教育を行い、各部署にて開発・利用していく



	トライアル	導入初期	導入初期	定着期
体制	開発者 3名 実行者 10名	開発者 3-10名 実行者 10-20名	開発者 10名- 実行者 20名-	開発者 10名- 実行者 20名-
ライセンス	FLフル 1 FL実行 3	FLフル 1-5 FL実行 3-5	NLフル 8- NL実行 10-	
シナリオ数	1-5	5-15	1-5	30-
管理ツール	管理ツール トライアル	管理ツール検討	管理ツール運用	管理ツール運用

メリット

- 投資対効果を意識するため、投資対効果の評価をしやすい
- 会社としてRPA開発人材育成に取り組むため、スキル習得時間の確保に理解が得やすい

デメリット

- プロジェクト開始当初はなかなかゴールイメージが湧かず、モチベーションが高まりづらいため、導入スピードは遅くなりがちとなる

WinActorご利用体制の例 ③ 全社推進・専任開発型

トップダウンによる全社での導入（開発は専任のチームが担当 もしくは外注）

例)RPAの推進を行う部署が各部署からの自動化要望を取りまとめ、専任のチームが開発し、シナリオを展開



体制	開発者 3名 実行者 10名	開発者 3-10名 実行者 10-20名	開発者 5名- 実行者 20名-	開発者 5名- 実行者 20名-
ライセンス	FLフル 1 FL実行 4	FLフル 1-2 FL実行 6-7	NLフル 3- NL実行 15-	NLフル 3- NL実行 15-
シナリオ数	1-5	5-15	15-30	30-
管理ツール	管理ツール トライアル	管理ツール検討	管理ツール運用	管理ツール運用

メリット

- 開発ルールに基づいた均質なシナリオを作成できるため、管理しやすい
- 現場側はボタン一つで実行するだけ

デメリット

- 業務ヒアリング等のコミュニケーションコストが大きい
- 開発時に現場の意見が取り入れられないことがあり現場との認識にギャップが生じることがある

製品ラインナップ

製品ラインナップ全体像

RPAを作る・動かす



*フル機能版・実行版・管理実行版

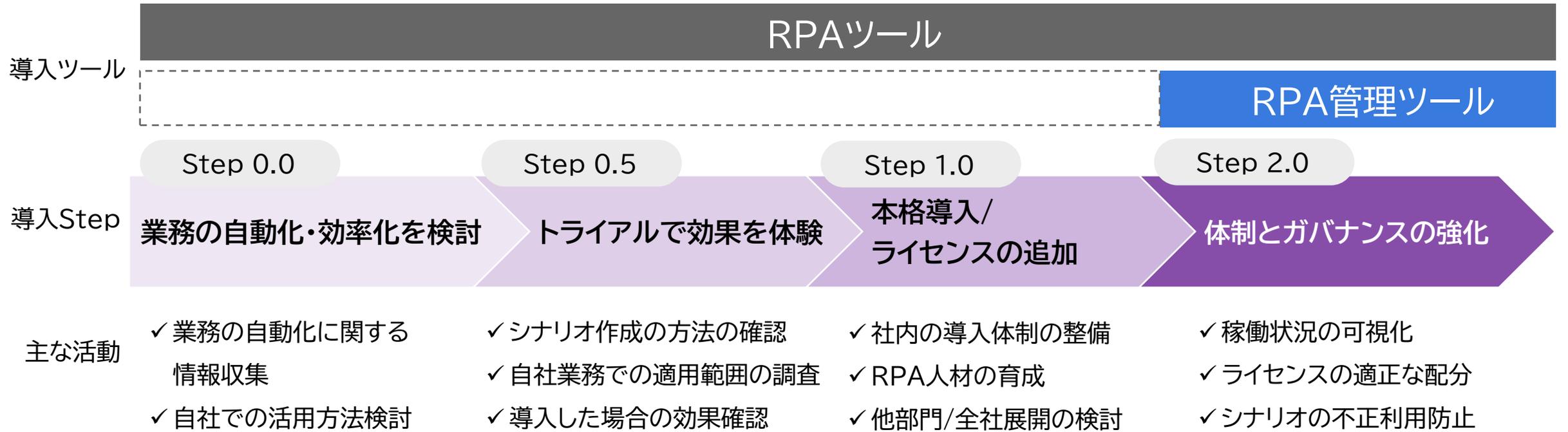
RPAを管理する



WIN DIRECTOR
powered by NTT-AT

「WinDirector」は、株式会社NTTデータの登録商標です

RPA管理ツールとは



RPA管理ツールで効率的な運用が可能

RPA管理ツールのご紹介

クラウド型	提供方式	オンプレミス型	
 WinActor Manager on Cloud [®]	製品名	WIN DIRECTOR <small>powered by NTT-AT</small>	
主な機能			
WinActor管理	ライセンス管理	利用情報管理	外部システム連携
<ul style="list-style-type: none"> ✓WinActor稼働管理 ✓シナリオ管理 ✓スケジュール管理 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ライセンス数管理 ✓ライセンスのグループ管理 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ユーザー管理 ✓所属情報管理 ✓権限ロール管理 	<ul style="list-style-type: none"> ✓RESTfulAPI連携
			

「WinDirector」は、株式会社NTTデータの登録商標です

8,000社以上の業務変革を実現した純国産RPAツール

WinActor[®]が、
仕事を変える。
あなたを変える。
組織を変える。

参考資料

一般的な導入の流れ

導入プロジェクトの実施期間はRPAの導入対象とする 業務の数やシナリオをどの程度作成するかによって変動します

RPA導入プロジェクト

計画策定

1. 業務改革/業務改善の目的を定める
2. RPA導入の企画を立案する
3. RPA導入プロジェクト全体の計画を策定する

業務分析

1. RPA導入の対象となる業務を選定する
2. RPA導入対象業務フローを可視化する
3. RPA導入後の業務フローを設計する

PoC

1. PoC計画を策定する
2. 業務自動化ロボット/シナリオを作成する
3. 効果測定し導入展開効果を試算する

導入

1. RPA導入計画を策定する
2. 業務自動化ロボット/シナリオを配布する
3. ロボット/シナリオの使い方を教育する

RPA運用

運用

1. ロボット/シナリオ実行
2. 実行結果確認
3. RPA導入効果測定/検証

保守改修

1. 実行エラー対応
2. 連携システムのアップデートに伴う対応

維持管理

1. RPA仕様書/業務フローなどのメンテナンス
2. 保守改修内容の周知

他業務へのRPA導入(展開)を企画

*PoC(Proof of Concept):概念実証。新しいテクノロジーを業務・ビジネスに導入する際に活用アイデアを評価・実証すること。

導入アプローチごとの特徴(1/2)

RPA導入のアプローチはトップダウン型とボトムアップ型があり、それぞれメリット・デメリットをご紹介します

トップダウン型のメリット・デメリット

<p>投資対効果</p>	<p>○導入当初より投資対効果を意識して進めるため、投資対効果の評価が行いやすい。</p>	<p>組織横断</p>	<p>○経営企画、IT部門、現場でプロジェクトチームを作り、組織内の様々な見識をあわせた推進がしやすい。</p>
<p>開発コスト</p>	<p>×RPA開発専門のチームがない場合、外部のリソースが必要となり開発コストがかかりやすい。 ×大規模な導入になりやすく、業務ヒアリング等のコミュニケーションコストが大きい。</p>	<p>現場感</p>	<p>×開発時に現場の意見が取り入れられないことがあり現場との認識にギャップが生じることがある。 ×導入時に現場からの反発が起きることがある。</p>
<p>スピード感</p>	<p>×プロジェクト開始当初はなかなかゴールイメージが湧かず、モチベーションが高まりづらいため、導入スピードは遅くなりがちとなる。</p>	<p>人材育成</p>	<p>○RPAの専任チーム・専任担当者を決めやすい。 ○社員をRPA開発ができる人材に育てようとする事が多く、RPA開発スキル習得時間の確保に理解が得やすい。</p>
<p>運用・管理</p>	<p>○開発ルールに基づいた均質なシナリオを作成できるため、管理しやすい。</p>	<p>展開・浸透</p>	<p>○各部署で担当を決めて取り組むことが多く、組織の展開、浸透が進みやすい。 ○組織全体で見たときに注力すべき領域を経営判断できる。</p>

導入アプローチごとの特徴(2/2)

RPA導入のアプローチはトップダウン型とボトムアップ型があり、それぞれメリット・デメリットをご紹介します

ボトムアップ型のメリット・デメリット

<p>投資対効果</p>	<p>×小規模導入となりやすいため大きな投資対効果を出しづらく、取り組みを評価されづらい。</p>	<p>組織横断</p>	<p>×RPA導入部署に留まった活動になりやすい。</p>
<p>開発コスト</p>	<p>○現場主体でシナリオ作成を進めることが多く、シナリオ数も多くないため開発コストは限定的であることが多い。</p>	<p>現場感</p>	<p>○RPA導入を現場のニーズや多様性を取り入れながら進めやすい。</p>
<p>スピード感</p>	<p>○現場担当者は業務プロセスに精通しているため、WinActor導入・シナリオ作成をスムーズに進めやすい。</p>	<p>人材育成</p>	<p>○現場担当者でRPA開発者が一致しRPAスキルの習得が早いことがある。 ×RPAスキルが属人化しやすい。</p>
<p>運用・管理</p>	<p>×シナリオ作成担当者によってシナリオの品質にばらつきがあり、管理コストが大きくなりやすい。</p>	<p>展開・浸透</p>	<p>×全体で見たときに大きく効率化されるべき業務がRPA適用業務に選ばれないことが多い。 ×展開するために関連部署との細かな調整が必要となりやすい。</p>



WinActor®はNTTアドバンステクノロジーの登録商標です